

日本スペイン交流400周年記念事業実施報告

平成26年8月

日本スペイン交流400周年実行委員会事務局
現地タスクフォース事務局

昨年6月、我が国皇太子殿下のスペイン御訪問により開幕した「日本スペイン交流400周年事業」(以下「交流年」)は、7月末日をもって幕を閉じた。1613年、スペインに対する我が国最初の公式使節である慶長遣欧使節団がスペイン国王フェリペ3世の下に派遣されてから400周年を記念して実施された本交流年は、両国の皇太子殿下に名誉総裁に御就任頂き、政治、経済、文化、学術、教育、スポーツ等の多岐に亘る分野で、活発な人的交流と多くの記念事業が実施された。スペインでは、市民の積極的な参加を得て全国各地で計570件を超える事業が実施された。交流年は、日本とスペインとの相互理解を深め、両国関係に新たな地平を拓くものとなった。



本件交流年の閉幕にあたり、スペインで行われた交流年事業の概要と成果を以下の通り報告する(写真資料 別添1のとおり)。

1 交流年事業の実績

昨年6月から本年7月までの交流年期間中、スペイン全国で多彩な事業が実施された。日本大使館や日本側関係機関による事業に加え、スペイン側の中央政府や地方政府、各種財団や美術館、市民団体や日本文化愛好家、在留邦人らが中心となって実施された事業は、登録ベースで計571件に上った(詳細は別添2「交流年記念事業登録事業一覧」ご参照)。

事業内容では、「美術・写真・デザイン等の展示事業」207件(36%)、「演劇・音楽等の公演事業」138件(24%)の他、「映像・出版事業」64件(11%)、「スポーツ・競技事業」40件(7%)、「食文化の交流事業」23件(4%)等の多様な分野で事業が行われた。



開催都市別では、マドリード自治州(206件:30%)、カタルーニャ自治州(178件:26%)での開催が多かったが、日本側からの働きかけにより、アンダルシア州(82件:12%)、バレンシア州(38件:5%)、カスティージャ・イ・レオン州(36件:5%)他でも積極的に事業が開催され、スペインの17自治州全てで数多くの事業が行われた(詳細は別添3「交流年記念事業都市別整理リスト」ご参照)。

登録月別で見ると、当国春・秋の文化シーズンに多くの事業が行われた。2013年9月(74件)、2014年1月(54件)、3月(42件)、4月(41件)の順に登録件数が多かった。

2 交流年事業の特徴と成果

(1) 日本とスペインの両国が緊密に協力して国を挙げて取り組んだ

まず、この交流年の特徴として挙げられるのは、日本とスペインの双方が緊密に協力しつつ、それぞれが国を挙げて交流年事業に取り組んだことである。

両国の皇太子殿下がそれぞれ交流年の名誉総裁に御就任になり、終始交流年に深い関心と温かい支援をお寄せいただいた。日本側では、政府、関係機関、民間代表等により構成される「日本スペイン交流400周年」実行委員会（委員長：佐々木幹夫 三菱商事相談役、副委員長：横山進一 住友生命会長）が立ち上げられ、同委員会の下に設置された現地タスクフォースが、2012年2月よりほぼ毎月、計25回に亘る会議を行い、関係者間の綿密な連絡・調整の下、計画的に交流年事業が企画・実施された（詳細は別添4資料ご参照）。また、女優の竹下景子氏、写真家の関口照生氏、漫画家の井上雄彦氏に「交流年親善大使」に就任していただき、交流年の積極的な広報、各種行事の開催を通じて交流年を盛り上げていただいた。

また、アスナール・スペイン側交流年担当大使をはじめとするスペイン側と日本側が緊密に連携しながら、交流年の基本コンセプトの作成や個々の事業の展開を行うことができたことは大変有意義であった。例えば、日西双方で交流年の「ロゴマーク」や「テーマ曲」、更には各々が運営する交流年ウェブページの表紙ページの共有が図られるとともに（<http://www.esja400.com/>：別添5ご参照）双方の関係当局が協力して、交流年を記念する「記念硬貨」と「記念切手」が発行された。



更に、交流年開幕のタイミングで、日府の共同提案に基づき、慶長遣欧使節団関連文書が「ユネスコ記憶遺産」として登録されたことは、交流年の歴史的な意義を高めるものとなった。当国で貴重な古文書を保管する「インディアス公文書館」（セビリヤ）及び「シマンカス公文書館」（バジャドリッド）では、交流年記念事業として「慶長遣欧使節団記録文書展」を開催し、好評を博した。

日本側事業では、著名なスペイン人デザイナー・マリスカル氏による「マスコット」が制作され、交流年がより一般市民に親しまれて、広く知られる一因となった（別添6ご参照）。



本スペイン両政



(2) 極めて活発な人的交流が行われた

交流年の期間中、政府要人をはじめ各分野で極めて活発な人的交流が行われた。

日本側交流年事業は、昨年6月、我が国皇太子殿下のスペイン御訪問により盛大に開幕した。皇太子殿下は、10年振りに開催された日西経済合同委員会やプラド美術館日本美術展のオープニング等マドリードにおける交流年開幕記念行事に御臨席された他、サラマンカ、セビリア、コリア・デル・リオ、サンティアゴ・デ・コンポステラを御訪問され、各地で大歓迎を受けられた。特に、慶長使節団が滞在したコリア・デル・リオ市では、炎天下、沿道であふれんばかりの市民から歓迎を受けられるなど、交流年のオープニングにふさわしい御訪問となった。



政府レベルでは、昨年10月には、日本における交流年の開幕に合わせ、ラホイ・スペイン首相が訪日し、安倍総理との間で首脳共同声明「平和・成長及びイノベーションに関するパートナーシップ」を発出した。本年5月には、安倍総理がサンティアゴ・デ・コンポステラを訪問した。また、ガルシア＝マルゲージョ外相と岸田外相が各々相手国を訪問した。更に、ガルシア＝エスクデロ上院議長とポサーダ下院議長が訪日した他、日本側からも衆議院・参議院公式派遣の議員団7組がスペインを訪問した。そして交流年を機に、スペインにおいても西日友好議員連盟が再結成された。

民間レベルにおいても、昨年6月に日西経済合同委員会が再活性化されて以降、経済人の往来が一層活発化した他、文化、芸術、学術、スポーツなど幅広い分野で、両国を繋ぐ人的交流の輪が広がった。



(3) 多くの分野で多彩な事業が実施された

交流年期間中、極めて多岐に亘る分野において多彩な事業がスペインを代表する美術館・博物館、文化機関等において数多く開催された。

ア 日本の伝統文化

スペインでも人気の高い日本の伝統文化では、生け花、茶道、書道、武道、折り紙、盆栽、日本舞踊、和太鼓、三味線等の記念事業が行われた。生け花では、池坊専永宗匠や遠州流家元による特別華展がマドリードで開催された。また折り紙の分野では、サラゴサに現地自治

体他の支援を得て「サラゴサ折り紙博物館」が開館した。同博物館は欧州初となる折り紙専門の博物館として活動を始め、興味深い企画とともに連日多くの市民が来訪し、メディアの注目を集めている。

また、プラド美術館における「日本美術展」(琳派屏風展及び浮世絵展) サン・フェルナ



ンド王立美術アカデミーでの「浮世絵：国貞と歌川派の世界」展、カイシャ・フォーラムでの「ジャポニズム展」、装飾博物館での「南蛮漆器：スペインに残された日本の足跡」展などが開催された。国際交流基金が主催した南蛮漆器展は、日本とスペインの日本美術研究家が協力して企画されたもので、知られざる日本とスペインの交流史を明らかにするとともに、両国の研究者相互の交流の機会としても高い成果を上げた。

スペインでも多くの愛好家を有する囲碁では、その世界大会である囲碁棋聖戦(第38期囲碁棋聖戦7番勝負第1局)がアルカラ・デ・エナーレス市で開催された。囲碁棋聖戦の海外開催は6年振り、スペインでは初めての開催となり、日本国内でも高い注目を集めた。



イ 日本の近・現代文化

交流年では、伝統と現代文化が融合する日本の現在が、演劇、ダンス、美術を通して紹介された。現代美術家杉本博司氏演出により文楽の新たな境地を開いた杉本文楽「曾根崎心中」、平田オリザ氏演出の実物のアンドロイドが登場する演劇「三人姉妹」、舞踏集団・大駱駝艦の最新作「ウィルス」等の公演が好評を博した。



また、現代の著名な刀匠達がアニメ「エヴァンゲリオン」に登場する架空の刀槍類の実物を制作し、古来の名刀とともに展示した「エヴァンゲリオンと日本刀」展が開催された。

世界的に評価の高い日本映画の紹介も行われた。「サン・セバスティアン国際映画祭」における映画「武士の食卓」出展の他、国際交流基金による「大島渚特集」の実施、「シッチェス国際ファンタスティック映画祭」への三池崇史監督招へい、「マドリード実験映画祭」への是枝裕和監督招へいのほか、「日本の監督 36 選特集」などの日本映画特集上映や無声映画&活弁公演の実施等が交流年事業として開催され、高い評価を受けた。



音楽では、交流年の開幕と閉幕を飾った川上ミネ氏作曲の、支倉常長の壮大な旅をモチーフとした音楽会など様々な演奏会が各地で行われ、人々を魅了した。また、日本の伝統楽器と西洋楽器のコラボレーション企画（「竜馬四重奏」公演等）も人気を集めた。2014年7月には和太鼓グループ「鼓童」による巡回公演が行われ、閉幕に花を添えた。スペインの音楽界からは、日本でも高い人気を誇る世界的ギタリスト故アンドレス・セゴビア氏の名を冠した「アンドレス・セゴビア記念メダル」が交流年を記念して日本国民に授与された。

さらに、近代アートでは、コンプルテンセ大学美術館にて「ファイバー・アート」展が開催され、多くの市民で賑わった。



ウ ポップカルチャー

マンガやアニメ等の日本のポップカルチャーは、交流年事業の中でも高い人気を誇った。欧州最大規模のマンガ・アニメフェスティバル「サロン・デル・マンガ」(バルセロナ)や「エキスポ・マンガ」(マドリード)の他、スペイン全国各地で行われたマンガ博、コスプレ大会等が交流年事業として登録され、多くの若者が参加した。スポーツをテーマとした2013年の「サロン・デル・マンガ」には、「キャプテン翼」の作者高橋陽一氏が招へいされたほか、国際交流基金によりアマチュア相撲が招へいされた。また、「スラム・ダンク」や「バガボンド」の作品で知られる人気漫画家で、交流年親善大使でもある井上雄彦氏が、ガウディを題材にした書籍「ペピータ」の出版や展示会を開催し、反響を呼んだ。



エ 教育・青少年・スポーツ

教育の分野では、昨年11月、「日西大学学長会議」が初めてサラマンカ大学で開催され、大学間交流の強化について議論が行われた。また、本年3月には、セビリアにおいて、スペインにおける日本研究者が一堂に会した「スペイン日本研究学会」が開催された。

近年、スペインでは、対日関心の高まりとともに、日本語学習者も急増している。スペイン日本語教師会は、国際交流基金や大使館の協力を得て、スペインで初めての「欧州日本語教師会総会・研修会」や欧州で初めての試みとなる「日本語劇コンクール」を開催した。また、スペインで25年もの長い歴史を持つ「日本語弁論大会」も開催され、交流年は、スペインにおける日本語学習を一層盛り上げる貴重な機会ともなった。



このほか、国際交流基金により日本から招へいされた俳句や東北民謡などの専門家による日本語学習者を対象とした巡回ワークショップがセビリアやコリア・デル・リオなどで開催され、普段日本文化に触れる機会のない地方の学生たちに貴重な機会を提供した。

さらに、ニシハラ ノリオ氏の「カブリモノ」アートの展示・ワークショップにあわせ子供俳句や日本をテーマとした絵画のコンクール優秀者作品展も開催され、多くのこどもたちが参加した。また、交流年開催期間中、スペインの大学等より大使館に計6名、国際交流基金に計4名のインターン生を順次受け入れ、若手日本研究者の育成を図った。スポーツ分野では、ラグビー日本代表のスペイン遠征や少年サッカー交流が行われ、参加者が友情を深めた。

オ 観光・食文化



観光分野では、「マドリード国際観光見本市:FITUR2014」や「バルセロナ観光展 SITC2014」に交流年事業の一環として日本ブースを設置し、日本への観光誘致を行った。食文化では、「マドリード・フシオン2014」や「サロン・デ・グルメ2014」に日本ブースを出展した。同ブースでは、スペイン側文化交流大使に任命された料理研究家の服部幸應氏の協力を得て、和牛や日本酒の紹介を行い、大きな関心呼び、当地メディアにも大きく取り上げられた。



(4) スペイン全土で様々な事業が実施された

交流年では、スペインの17自治州全てで多くの事業が行われるとともに、両国間の地方レベルの交流も活発に行われた。

交流年事業は、その数からみれば、首都マドリッドとバルセロナが圧倒的に多いものの、日本側実行委員会の積極的な働きかけもあり、地方でも様々な事業が行われた。例えば、バレンシアの「火祭り」、ポンテベドラの「椿祭り」、バジェ・デル・ヘルテの「桜祭り」等の

各地方の伝統的な祭りに、交流年事業としての企画が盛り込まれた。



また、地方政府や市民団体と協力して、の事業が多くの地方都市で開催された。日となって、慶長遣欧使節団ゆかりの地を中も行われた。



「日本文化週間」等西観光協会が中心に、桜の記念植樹

日本とスペインでは、現在、11の自治体で姉妹都市交流協定が結ばれているが、これら地方自治体では、この機会に多くの交流事業が開催された。日本にキリスト教を布教したフランシスコ・ザビエルと縁の深い山口県交流団はナバーラ州と「山口県・ナバラ州姉妹都市交流10周年記念式典」を開催した。また、ともにユネスコ世界遺産として登録される「サンティアゴ巡礼道」と「熊野古道」の間で結ばれた世界的に珍しい「姉妹道提携」を持つ和歌山県交流団は、この機会にガリシア州他を訪問するとともに、和歌山県田辺市とサンティアゴ・デ・コンポステーラ市の間で観光協力協定が締結された。四国巡礼道を持つ香川県でもサンティアゴ巡礼道との交流が進んでおり、モリナ・セカ町、サンティアゴ・デ・コンポステーラ（モンテ・デ・ゴソ：望みの丘）に交流年記念碑が建立された。

(5) 多くの市民・団体の積極的な参加や協力によって行われた

交流年事業は、多くの市民や



団体の積極的な参加や協力によ

って支えられ実施された。中央政府や地方政府のみならず、様々な財団や美術館、市民団体や日本文化愛好家、そして在留邦人らが中心となり、心こもった手作りの事業が数多く実施された。これらの方々の協力なくしては、交流年はこれほどの盛り上がりを見せることはなかったと言える。交流年事業の開催を通じ、これら団体・個人と大使館や国際交流基金との協力関係が新たに生まれたり、強化されるなど、交流年後の文化活動の展開においても貴重な資産となった。



3 東日本大震災からの復興

今回の交流年は、「東日本大震災からの復興」が重要なポイントとなった。慶長遣欧使節団の派遣は、約 400 年前の 1611 年に三陸地方を襲った地震と津波から 2 年後に派遣されており、震災からの復興を目的としていたとも言われている。今回の交流年は、同じく大震災から 2 年後に開始されたこともあり、宮城県をはじめとする被災地の人々は、支倉常長の忍耐と勇気に続けと、交流年に深い思いを寄せた。

スペインでは、「フクシマの英雄達」に当国で最も権威あるアストゥリアス皇太子賞が授与されるなど、スペイン各方面から心温まる支援と励ましを頂いた。交流年事業においても、被災地の復興に向けての息吹を伝える「東日本大震災報道写真展」や「元気な日本展」、「3.11-東日本大震災の直後、建築家は どう対応したか-」展が各地で開催された。また、本年 3 月、震災発生 3 年目の当日、慶長遣欧使節団縁のコリア・デル・リオ市で追悼式典、セビリア大聖堂で追悼ミサ、コルドバ大聖堂で追悼音楽会などが行われ、多くのスペイン市民から追悼と連帯の意が表明された。



4 結語



このように日本側が中心となって企画したスペインにおける交流年は、スペイン全国で多くの事業が行われ、大きな盛り上がりを見せた。これは一重に、我が国の国民や文化を温かく受け入れるスペイン市民の協力があってこそその成果であり、深く感謝したい。

スペインは、フェリペ 6 世国王陛下の即位によって、新たな歴史を歩み始めている。日本とスペインの国民が互いに理解を深め、友情を育むことができたこの交流年の成果を、一過性のものに終わらせることなく、次の 100 年、また 400 年先へと繋げていくことが重要であるとする。今回の交流年事業開催を通じて、今後とも日本とスペインの両国が長い歴史的な絆を持つ友好国として、さらに交流を深め、共に繁栄していくことを祈念し、本件交流年の報告を締めくくりたい。

(了)

